

関門海峡道路を考える懇談会

報 告 書

概 要 版

平成 13 年 4 月

山 口 県

福 岡 県

下 関 市

北 九 州 市

中国経済連合会

(社)九州・山口経済連合会

目 次

関門海峡道路を考える懇談会 設立趣意書.....	1
関門海峡道路を考える懇談会 委員名簿.....	2
関門海峡道路を考える懇談会 最終報告.....	3

関門海峡道路を考える懇談会 設立趣意書

関門海峡道路については、平成4年度から建設省においては経済調査、技術調査が行われており、また山口・福岡両県においても地域連携調査を進めております。一方、中国経済連合会、(社)九州・山口経済連合会においても民間団体として独自に、平成9年度から関門地域ビジョンの提言や同プロジェクトの経済効果等に関する調査を実施してきたところであります。

しかしながら、関門海峡道路のような大規模かつ世論の関心が高いプロジェクトを具体化するためには、各界の幅広い視点から意見を求め、そのあり方について、地域住民はじめ広く国民に周知し、コンセンサスの形成に努力することが特に必要不可欠であります。

このため、地域及び中央の様々な立場の有識者にご参画願ひ、関門海峡道路に関して、幅広い議論と意見交換を行うため「関門海峡道路を考える懇談会」を設立するものであります。

平成12年7月3日

設立主体 山口県
福岡県
下関市
北九州市
中国経済連合会
(社)九州・山口経済連合会

関門海峡道路を考える懇談会 委員名簿

(座長)

- 奥島 孝康 早稲田大学 総長

(副座長)

- 杉山 武彦 一橋大学大学院 商学研究科 教授

(学識経験者)

- 山崎 朗 九州大学大学院 経済学研究院 教授
 吉津 直樹 下関市立大学 経済学部 教授
 池田 潔 北九州大学 北九州産業社会研究所 助教授

(報道関係者)

- 三宅 昌臣 (株)中国新聞社 常務取締役 編集局長
 玉川 孝道 (株)西日本新聞社 取締役 編集局長

(地元有識者)

- 河崎 威 下関市連合自治会 会長
 木下 憲定 北九州市自治会総連合会 会長
 乙部 圭子 国際ソロプチミスト東下関 理事
 安部 高子 (株)ケー・ビー・エス 社長

(経済界)

- 林 正 (社)経済団体連合会 環境・国土本部長
 冨田 俣彦 下関商工会議所 専務理事
 山本 綱夫 北九州商工会議所 専務理事

関門海峡道路を考える懇談会 最終報告

本会（「関門海峡道路を考える懇談会」）は、関門海峡道路の必要性やそのあり方を広く周知し、国民的コンセンサスと地域内コンセンサスを得るために必要と考えられる視点や検討事項について、有識者による様々な立場・視点から意見の交換を行い、その内容を広く公表していくことを目的としている。

本会は全5回開催され、関門海峡道路に関する各種調査の結果について関係者から説明を受け、これを議論と意見交換の契機とした。また、第2回には本会メンバーによる現地視察会を行った。

以下は、これまで本会が検討した内容を、「関門海峡道路のあり方」、「同道路の必要性」、「今後の建設促進へ向けての提言」について整理し、とりまとめたものである。

◆関門海峡道路のあり方

- 関門海峡道路の性格については一面的ではなく、北九州・下関両市をツインシティ化する地域内道路の側面と、国土軸を重層化する広域道路ネットワークの要としての側面の両面がある。
- 同道路は、環状道路網を形成することによって、「関門地域」が北九州・下関両市の拠点性を活かし、周辺市町村と広域的な連携を強化することを可能にする。その結果、産業面だけではなく、広域圏における多様な居住形態等、生活の選択肢が広がる。この場合、同道路の整備と並行して、福岡都市圏等との連携も含め、北九州福岡道路、下関西道路等の周辺道路の整備も進める必要がある。

- また、これまでの調査結果を見ると、同道路の効果は、関門都市圏のみならず首都圏をはじめ三大都市圏を中心として広域に及ぶことが見込まれており、広域交通・広域利用に関して不可欠な道路と位置づけられることを、本会では認識した。
- さらに、本州・九州間の交通を支え、今後ますます増加するアジアとの貿易・交流を支える国際物流の拠点として期待の大きい関門地域において、国土軸を重層化する広域道路ネットワークにおける、リダンダンシー確保の役割を同道路が有することも極めて重要である。
- このような関門海峡道路のあり方に関する議論を踏まえ、本会は、同道路のルートとして、「下関市彦島迫町～北九州市小倉北区西港町」区域が有効であるとの見解を持った。

◆関門海峡道路の必要性

- 関門海峡道路の必要性は、同道路の性格それぞれについて整理される。既存の各種調査等の内容について多様な視点から検討し、周辺プロジェクトの進行状況等の視察を行った結果、関門地域において北九州・下関両市が拠点性を発揮するための環状道路として、広域交通・広域利用における国土軸の重層化並びにリダンダンシーの確保を図る道路として、さらに国際貿易・交流を支える拠点を繋ぐ道路として、本会においては、同道路について大方の委員が必要であるとの見解を持った。
- 今後さらに、国民的コンセンサスと地域内コンセンサスの両方を得るためには、

費用便益分析など定量的な評価手法を用いて、経済性の視点から見た同道路の必要性を明確にする必要があると考えている。

- その際、響灘ハブポートや新北九州空港、下関沖合人工島（ひびっくらんど）といった、地域の物流や人流に大きな変化を与える大型地域開発プロジェクトの影響を、計画策定段階の交通需要予測に適切に織り込むことが望まれる。

◆今後の建設促進へ向けての提言

- 関門海峡道路を、今後、より熟度の高い計画として次期道路整備五ヵ年計画等に組み入れられるよう、地元が一丸となって建設促進に取り組むことが求められる。これまで建設促進活動を行ってきた団体以外でも、地元住民団体等の発意から、建設促進の気運が盛り上がることを望まれる。
- 例えば、産業、観光など様々な分野で地域振興の常設的な機関を設置するなど、北九州・下関両市とその周辺地域を含んだ、関門地域全体を議論できる場が必要である。また、取り組んでいる活動については十分にPRし、対外的にこの地域全体のビジョンが見える形にする継続的な努力が必要である。
- さらに、全国的なメディアや博覧会などイベントの場も積極的に活用し、特にこれからニーズの高い、産業観光といった研修的な色彩の強い施設や企業の集積、優れた景観も含めた国際海峡都市としての魅力など、この地域の持つ総合力をアピールすることが重要であり、地域の情報発信機能を高めるための活動が必要である。

- 前述のとおり、関門海峡道路の性格は一面的ではなく、どの性格が強調されるかが、整備手法とも係わる重要な点であると考えているが、本会では整備手法のあり方については詳らかにしない。

- しかしながら、公共事業見直しの世論が強まる中、同道路の早期実現を図るには、総事業費の削減や事業の効率化を考慮すべきである。特に国土交通省では、コスト削減のために、構造や材料に関する様々な検討が行われており、引き続き十分な調査と検討を期待する。

以 上